LAST MOMENT

GILLETTE & TOLERANCE

(GOOD AND EVIL)

FERDINANDO FREGA

GILLETTE & 寛容

短い行で綴られた十二楽章のマニフェスト。善は自然なものではなく、脆く、意図的で、代償を伴う。悪は機能的で、怪物を必要としない。中立は存在せず、読むことのまわりにコミュニティは生まれない。最後に著者は退き、同意ではなく立場を読者に求める手紙で閉じられる。

I. 頼まれもしない前提

このテキストは、気に入られるために書かれたのではない。
教えるために書かれたのではない。
救うために書かれたのではない。

これが存在するのは、十分に見てしまった人々がいるからだ。
そして一度見てしまえば、ふりをすることはもうできない。
善はひとりでにはやって来ない。
悪はやって来る。
これは意見ではない。
不快な事実である。

II. 善の偽りの無垢

善は自然なものではない。
それは脆く、意図的で、代償を伴う。
善はおのずと生まれると信じる者は、
本当にそれを守らねばならなかったことがない。
善が求めるもの：
• 存在
• 努力
• 自制

• 喪失
善は安楽の中では育たない。
善は流れに逆らって育つ。
だからこそ、しばしば弱さと取り違えられる。

III. 悪の正常さ

悪は呼び出される必要がない。
儀式を必要としない。
怪物を必要としない。
悪は機能的である。
適応する。
自らを正当化する。
溶け込む。
悪は叫ばない。
悪は説明する。
悪はあなたに言う：
• 「今はその時ではない」
• 「これは私の責任ではない」
• 「ほかに選択肢はない」
• 「物事はこういうふうに動いている」
悪は正常さの中で栄える。

IV. 中立は存在しない

中立とは心地よい神話である。
選択の代償を払いたくない者たちが作り出した。

選ばないことは、すべて選択である。
遅れは、すべて降伏である。
正当化は、すべて署名である。

善を選ばない者は、
中立ではない。
悪に場所を空けているのだ。

V. 善は優しくない

善は慰めない。
なだめない。
安心させない。
善はさらけ出す。
言い訳が欲しいときに、
あなたを鏡の前に立たせる。
善は説明を求める：
• あなたが避けたことについて
• あなたが正当化したことについて
• あなたが「必要だった」と呼んだことについて
善が求めるのは一貫性であって、
純粋さではない。

VI. 悪は残酷ではない

悪が残酷さとして姿を現すことはまれだ。
必要性として姿を現す。
仕事を持っている。
家族を持っている。
立派な役割を持っている。
本当の悪は：
• 力で破壊しない。
• あからさまに攻撃しない。
• 静かに蝕む。
それを行うのは、

損害をもたらしながら
手を汚すことなく
社会の承認を失うこともない者たちだ。

VII. 物語は赦さない

物語は理解を助ける。
だが救いはしない。
物語は感情を動かす。
だが決めはしない。
あなたは通り抜けるかもしれない：
• 病
• 喪失
• 裏切り
• 不正
• 深い苦しみ
そして何も変わらずにいるかもしれない。
痛みはあなたを良くはしない。
より見えるようにするだけだ。

VIII. 責任

あなたが生き抜いてきたことの何ひとつ、
自動的にあなたを「善い人」にはしない。
あなたを責任ある者にする。
変えられなかった痛みは、すべて
毒に変わる。
言い訳に使われた傷は、すべて
他者に向けた武器になる。
責任とは、物語が終わり
倫理が始まる場所である。

IX. 善の孤独

善はしばしばひとりだ。
観客はいない。
拍手はない。
すぐに返ってくるものもない。
それは誰も見ていないときに
なされる小さな行為である。
つけ込むほうがたやすいときに
自らに課す境界である。
善は世界を変えない。
向きを変える。

X. 嘘としての運命

運命とは、選択の重さを避けるための
洗練された言い訳である。

あなたを赦してくれる運命などない。
あるのは、正直に向き合われることのなかった
決断の連なりだけだ。

偶然はあなたの道を横切るかもしれない。
だが決めるのはあなただ、
それをどうするのかを。

幸運は贈り物ではない。
前もって渡された責任である。

XI. 線

ある瞬間がやって来る、
もはや混同が許されない瞬間が。

一方には：
自分が悪をなしうると知りながら
それをなさないと選ぶ者たち。

もう一方には：
選ぶことそのものを避けるために
自らを「善い人」と呼ぶ者たち。

これが線である。
ほかにはない。

XII. コミュニティはない

このマニフェストは
コミュニティを作らない。
帰属を与えない。
避難所を与えない。
とどまる者は
ひとりでとどまる。
去る者は
引き止められない。

著者は退く

このテキストの後に
続きはない。
説明はない。
著者はいない。
著者は退く、
もはや必要とされないから。
残るのは読者だけだ、
自らの選択とともにひとりで。

啓示

善はあなたを良くしない。
悪はあなたを悪くしない。
それらはあなたを明らかにする。
あなたが誰なのかを明らかにする、
誰も見ていなくて
説得すべき相手もいないときに。

結び

慰めを求めてここにいるのなら、
これは間違ったテキストだ。
教訓を探していたのなら、
時間を無駄にした。

責める相手を探しているのなら、
周りを見回すがいい。

これは教えではない。
一本の線である。

円は閉じた。

読者への手紙

あなたは偶然ここに導かれたのではない。
だが偶然はあなたを赦さない。
好奇心は無垢ではない。
それは試練である。
あなたが読んだものは同意を求めない。
立場を求める。
居心地の悪さを感じたなら、それは何かに触れたからだ。
何も感じなかったなら、それもまたひとつの答えである。

このテキストは信じられることを求めない。
導きを与えない。
安らぎを約束しない。
説明が尽きたときに
残るものとともに、あなたを置いていく。
今、これらの言葉の背後に立つ著者はいない。
あなたを待つコミュニティはない。
結論は続かない。

続くのはあなたの選択だけだ。
準備ができたらページを閉じよ。
その前ではなく。
著者は退く
—
この先に続くものは

教義

ではない。

それは

省察である。

—

Ferdinando Frega